



OPGE通信

東京学芸大学男女共同参画推進本部ニューズレター

Vol.13 2009年12月16日

保育園の名前は「学芸の森保育園」にー揺籃期を自然と芸術の恵みで一杯にー

学長 鷲山恭彦

いよいよ念願の保育園が着工される。グランド門を入った南側で、松の古木に囲まれて、やがて瀟洒な建物が姿を現してこよう。これまでの保育所設置準備委員会の皆さんの熱い想い、決断、奮闘の数々を知っているだけに、感慨無量である。

準備委員会の皆さんから「名前をつけて下さい」と言われた。私たちのキャンパスは豊かな森につつまれている。「学芸の森保育園かなあ」と言うと、「私たちもそんな風に考えていた」ということで、まさに啐啄^{そつたくどうじ}同時で「学芸の森保育園」と決まった。

キャンパスにはいろいろな草花や木々、そして昆虫や鳥や動物たちもいて、まさに学芸の森だが、日本は森の国であると同時に、海にも囲まれている。山幸彦、海幸彦の説話もある。海のイメージもどこかに取り入れたいと思った。

先日、東京藝術大学の学長の宮田亮平先生と話していて、はたと思いついた。宮田先生は佐渡のご出身で、大学受験で佐渡海峡を渡るときに見たイルカの印象が鮮烈で、それを鍛金作品のモチーフにされている。思い切って「イルカの作品を頂けませんか」と申し上げた。快く承知して下さいました。対して、森のイメージの鍛金作品は何か。森といえば、知恵の神フクロウである。本学には古瀬政弘先生がおられる。早速、古瀬先生のところをお願いに伺った。喜んで承知して下さいました。

残された課題は、どこにどう置くかである。入り口に対照して並べるのか、建物の中なのか。楽しい議論である。準備委員会の皆さんと施設課の皆さんで検討して下さいました。

「学芸の森保育園」には、このように皆さんの沢山の想いと構想と知恵のベクトルが絶妙に切り結んでいる。着工が心待ちである。

保育所について聞きました。

上述のように、来春に学内保育所がオープンする予定です。それについて、学生や教職員にインタビューをいたしました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

Q：学芸大学に保育所ができることを知っていましたか？

A：知りませんでした（学部生・女性）

A：知っていました（職員・男性）

（注：学生のほとんどが保育所設置を知らなかったのに対して、教職員のほとんどが知っていました）

Q：学芸大学に保育所があることをどのように思いますか？

A：女性の職員が働きやすくなると思う（大学院生・女性）

A：すでに幼稚園があるのに、とは思ったが、大学で働く人にとっては、子どもを職場に連れてきて預けられるのは、とても助かることだと思う（学部生・男性）

A：学生も保育に関わるとすれば、先生以外の多くの人目で見てもらえるのは、子どもにとってうれしいことではないか。父親が多忙で育児にあまり参加しない発達障害の子どもが、保育所の男性のスタッフとの関わりの中で成長した例を知っている（学部生・女性）

A：0歳からの子どもが生きることの意味や、人との関係のあり方を学生が学んでいく場として、また研究の中に取り入れていく場としてとても意義があると思います。教育の営みは学校の中だけではなく、他者との関係の中で行われていくことを、保育園があることでより深く考えていくことが出来るのではないのでしょうか（教員・女性）

A：学内保育園は必要だと思います。女性にとって、教員や事務・附属学校も含めて助かると思います（職員・女性）

Q：機会があったら、あなたも保育所を利用したいと思いますか？

A：住んでいる場所に近くにあるなら使いたい（学部生・女性）

A：3月に引っ越すので次男の保育園を新たに探すのですが、まず居住地の認可、認証保育園の順で考え、待機児童が多い地域なのでいよいよとなれば、学大の保育園も視野に入れていきます。でも、車通勤ではないので、2歳児を公共の交通機関で連れてくることへの懸念があります（教員・女性）

A：いざというときの支えとして、学内保育園があると安心だと思います。また（保育園を利用したかった）当時、本園が独自の魅力的な取り組みをしている保育園として存在したとしたら、もしかしたら積極的に通わせるという選択もしたかもしれないと思います（教員・女性）

A：大学関係者じゃなくても使えるということを知りませんでした。小金井市に住んでいるのでぜひ利用したい（卒業生・女性）

Q：学芸大学の保育所にどのようなことを望みますか？

A：学芸大の附属であることを生かして幼児教育を実践するとよいのではないか。保育所は、長い保育時間を利用して幼稚園とは異なることができると思う（大学院生・男性）

A：子どもが健康で毎日楽しく過ごせるような保育園にしてほしいです。子どもに安心感を与えられるような、笑顔で元気で優しい保育者の方が良いです。また、気楽にお話ができて、連絡帳には子どもの様子を分かりやすく書いてくれるような保育者がいると助かります。食事については、季節感を感じさせるような野菜がいっぱい入っているような手作りの食事がいいと思います。子どもが保育園にいる時の様子を分かるように、定期的にお母さん先生を保育に携われる機会を作っていただけるとうれしいです（学生・1歳児の親）

A：普段は他の保育園を利用していたとしても、日曜出勤の入試監督などの場合に保育をしてもらえると助かります。来年度から土・祝日も授業が入る場合がありますね。土・日・祝日に大学の業務が入った時の保育対応は必要だと思います（教員・女性）

A：朝と帰りの延長保育をしてほしい。7：00～と20：00迄が理想です。また、楽しい行事や自分の体験から幼稚園で行っている子ども向けの学習活動も取り入れてほしい。それから、是非給食を取り入れてほしい。理由は、弁当だと自分の好みで片寄ったメニューになるので（職員・女性）

A：学芸大も男性保育士さんや女性も若手やベテランなどバラエティーな人材を雇用し特色ある保育を展開してほしい。昼食に限らずおやつなど手作りで出せる栄養士さんや調理師さんを雇用し、これも特色になる様な運営にして、親ができないことをやり親がそこで学ぶきっかけがもてることも有効である。離乳食は、働いている若い母親にとって結構負担を感じるころなので給食で用意してほしい（非常勤職員）

A：休日勤務の際の一時保育はもとより、病児・病後児の保育に積極的に取り組んでいただきたい。また、一時保育があることを理由に、育児従事者が休日勤務を強いられることのないよう、個別の事情に十分配慮する体制を整えていただきたい（教員・男性）

A：男女共同参画という点で重要と思いますが、ニーズ調査の結果や運営資金の調達方法、長期的展望など総合的な説明があるといいでしょう（教員）

A：定員が30名ということは、平均してみると各年齢5名くらいです。人数の偏りも年によってあるかもしれませんが。そういう保育環境の特殊性は、限界にもなりうるし、逆に、それを逆手に取ることで、他にはみられない長所にもしていけると思います。限界を最小限に、長所を最大限にできるような運営を望みます（教員・女性）

A：たとえばセンター入試の日などには、一時保育の枠が多く欲しい気がします（教員・女性）

A：保育所ができることには賛成です。ただ、そのことにより一部の教員や職員に何らかの加重負担がかからないように運営していただきたいと思います（教員・男性）

A：小学生などの18時以降も学童保育では対応してくれないので、そういう子どもたちも預かってくれるよう、幅が広がると嬉しいです。これは外注業者というより、学生力などを半分ボランティアのような形で借りることを考えないと対応不可能かもしれませんが。というのは、子育て中の女性の先生だって7限の大学院の授業も

出来る可能性がみえてくるとか、18時以降の子どもたちを鍵っ子にさせないとか等の、より広い可能性も見えてくるように思えるからです（教員・男性）

Q：ご意見などご自由にお話してください。

A：制度上障壁があると思いますが、なぜ幼稚園に保育園の機能を加える方向にしなかったのでしょうか。幼保連携が進められている中、教員養成系大学としては、保育士の育成よりも、保育ができる幼稚園教員の育成、保育園のシステムの研究よりも、保育機能をもった幼稚園システムの研究をするべきだと思います（教員・男性）

A：「趣旨・理念」に保育を受ける幼児のニーズがでてきませんが、「独創的な教育を行う」のであれば、まずは子どものニーズが出てくるはずかと思われます（教員・男性）

A：料金が高すぎて利用できない（職員・男性）

A：よい取り組とは考えるが、将来に向かって生ずる財政負担が心配（職員・男性）

A：将来的に入所希望者が増えた場合の優先順位などの選考基準が気になります（職員・女性）

第8回男女共同参画フォーラムを行いました！

平成21年11月25日（水）に『大学における男女共同参画と子育て』というタイトルのフォーラムを実施しました。学外からの講演者によって、他大学の子育て支援の実状を紹介してもらい、また地域からの学芸大の保育所に対する期待などをうかがいました。それを参考に本学におけるこれからの子育て支援の課題について議論をしました。講演は以下の通りでした。

千葉大学における育児支援の取り組み

（千葉大学教育学部両立支援室長・伊藤葉子さん）

東京農工大学における育児支援の取り組み

（東京農工大学女性未来育成機構長・宮浦千里さん）

本学における育児支援の取り組み

（本学男女共同参画推進本部副本部長・植松晴子）

学内保育所の設置と男女共同参画の推進

（本学男女共同参画推進本部本部長・高橋道子）

地域から学芸大の育児支援に期待すること

（本学こども未来プロジェクト研究員、及び

非営利団体ココハピプロジェクト代表・小山田佳代さん）

当日は42名（うち教職員は39名）が参加されました。それぞれの大学の特色に沿った独自の育児支援の仕組みや、それぞれの事情による苦労話など、興味のあるお話が紹介され、活発な討議が交わされました。特に、保育所等の支援システムを作るにあたっての大学での合意形成のプロセスや、ランニングコストの問題など、具体的な内容についても熱のこもった議論がなされていました。なお、このフォーラムは学内FD研修会に指定されました。



学芸フロンティア科目を行っています！

男女共同参画推進本部では、学部生における認識を深めてもらうため、今年度の後期より学芸フロンティア科目H（全学対象CA授業科目）として「男女共同参画社会を目指して」を行っています。本部門員を含む複数の講師が、日本における男女の役割の担い方の歴史や、男女共同参画の意義など、多角的な視点から深く理解してもらえるように講義をしています。木曜日の1限にN203教室で行っていますので、興味のある方はぜひ聞きに来てください。

コラム

専業主夫のSOS

学生相談センター カウンセラー 菊住彰

ひと月くらいは試用期間があると思っていたのです。赤ん坊の食事の作り方、オムツを換えるタイミングや洗い方……。しかし私が退職した次の日、妻は朝から職場に復帰して行きました。それが私の「専業主夫」初日の朝でした。

新聞記者生活の約10年は、睡眠不足と胃痛の連続でしたが、人と語る毎日には満ち足りていました。それがこの日を境に、0歳児と向き合うのが務めとなったのです。自己流の子育てでしたが、それでも手抜きのできない性格上、時間をかけても完璧にやり遂げました。「仕方ないよね。あの家は父親が育てているから」と言われたくないという意地もありました。

熱性けいれんで受診すると、医師から「お母さんは？」と尋ねられます。「今日は仕事で」と答えると、既往歴など一切聞こうとされませんでした。「父親に聞いてもわかるまい」と言われているような気がしました。診察を終えて待合室に出てくると、看護師さんが追いかけてきます。「お子さんの体重は…」と言いかけて、答えを待つまでなく息子を抱えて体重計に連れて行ってしまいます。その背中に「10.5キロです！」と小数点以下まで付けて答える私は、きっと「男親だってそのくらいは知っている」という不満に満ちた膨れっ面をしていたはずで

す。普段の日中は二人っきりでした。昼前の公園の母子は、なぜか連れ立って現れます。薄っぺらなTシャツでベビーカーを押してくる汗かきの男とその息子（私は子連れ狼を気取っていたのですが）を見ると、少し離れた所からわが子を見守ります。それでもわが息子は臆せず子どもの輪に入り、見慣れぬキャラクター付きのシャベルに手を伸ばそうとします。すると母たちは「お昼のお買い物に行くわよ」とわが子を呼び寄せ、そそくさと公園を後にします。残された私は、世間の昼メシは早い、と呟きながら、再び子連れ狼を気取って、公園デビューできる場所を求めて息子とともに歩きます。児童館や公民館にも寄りました。「親子でケーキ作り」など子育て企画のアイデアは満載なのですが、父子がいつ行っても和めるような「実家の茶の間」感がなく、敷居の高さばかりを感じていました。

初夏を思わせる陽だまりの中、ベランダに干した布団にもたれていました。抱いた息子はウトウトし始めています。このままお昼寝してくれれば、私も3日ぶりにトイレに行ける、新聞も読める。そんなことを思う横から、悪魔のささやきが聞こえました。「この子を布団の外に差し出して手を離せば、また自由で楽しい毎日が過ごせるじゃないか」。

我に返った時、息子は渾身の力で羽交い締めになされて泣き叫んでいました。ベランダに通じるすべての窓のカギを内側から閉めて、私たちは立っていました。

器用でもないのに父親のメンツにこだわった私が、「独り子育て」に陥った挙句に、音を上げて発したSOSだったのでしょう。間もなく、子連れ狼を卒業することにしました。息子は保育園に通い、私は二度目の社会人になるために大学に通い始めました。延長保育後に迎えに行くと、小さな園児を引き連れて兄貴ぶりを発揮する息子がいました。小学校では多くの親代わりに恵まれて、サッカークラブのキャプテンにまで推していただきました。恩返しのために、今度は私がコーチとして、街の「子どもたち」を育てています。

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学男女共同参画推進本部
●TEL/042-329-7108 ●fax/042-329-7114 ●E-mail/danjo@u-gakugei.ac.jp
●URL/http://www.u-gakugei.ac.jp/~danjo/
詳しい情報等はホームページをご覧ください。

